

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

# NYK

plus

NYK プラス  
vol.13 2013 Spring



**[特集] モノ運び最前線・“燃節”で効率よく運ぶ**

燃料節減へ船陸で連携  
リアルタイムで情報共有



仙台港停泊中には石巻市立釜小学校の6年生72人を船内見学会に招待した



オプションツアーに参加した乗客は復興中の被災地区を訪れ、地元ガイドからその様子を聞いた



上／東北の食材を使用した特別メニュー  
左／船内には募金箱を設置



応援クルーズには東北の「ゆるキャラ」も駆け付けた



Corporate Citizenship 日本郵船の社会貢献活動

# 知って・訪れて・食べて・飲んで・買って 被災地復興の担い手に

## 「飛鳥II」東北復興応援クルーズ

### Cruise of the Year 2012

#### クルーズ・オブ・ザ・イヤー 2012「特別賞」受賞

日本外航客船協会（JOPA）が主催する「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2012」で、当社が実施した「東北復興応援クルーズ」が「特別賞」を受賞しました。選評では「乗船から下船まで、全て東北応援一色に染めた。『乗船するだけで、気負うことなく、構えることなく、応援できる商品』づくり」（抜粋）と評価されました。



授賞式で「特別賞」を受ける安本浩之客船事業グループ長（左）

#### ○クルーズ・オブ・ザ・イヤーとは…

毎年、優れたクルーズ商品を表彰する選考会。国土交通省などの後援で2008年から実施されており、今回で5回目となります。

を企画しました。  
今回のクルーズによる売上の一部は、東北復興のために寄付されました。当社グループは引き続き、東北復興支援に取り組んでいきます。

東日本大震災被災地への支援活動が続ける日本郵船グループは2012年11月、横浜港と仙台港を往復する「東北復興応援クルーズ」を開催しました。客船「飛鳥II」をチャーターした2泊3日のチャリティークルーズには、約700人が乗船。「知って・訪れて・食べて・飲んで・買って、東北を応援しよう！」をコンセプトに、船内ではさまざまなイベントが実施されました。  
東北6県の観光ブース設置や東北の食材を使った特別メニューの提供、被災地などを訪ねるオプションツアー、地元小学生との交流会……。イベントを通して、継続して東北を訪れるきっかけをつくること、観光振興による復興応援につながることを今回のクルーズ



燃節  
で  
効率よく運ぶ

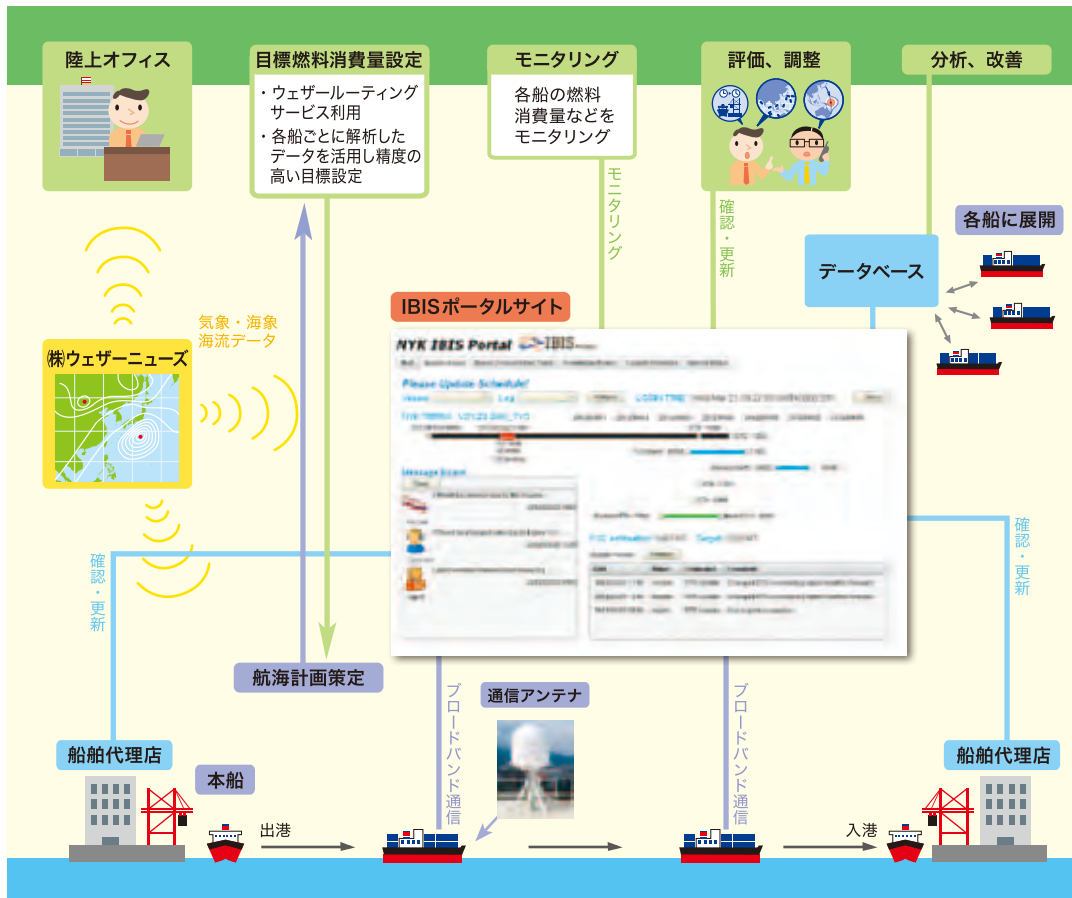


# 燃料節減へ船陸で連携 リアルタイムで情報共有

世界の海で数多くの船を運航する船会社にとって、昨今の燃料油価格の上昇は大きな課題の一つ。燃料の消費は環境負荷の増大につながるため、コスト面でも環境面でも船会社にとって燃料消費量の削減、言い換えれば効率性の高い運航の実現が重要になってきています。そうした取り組みの一つ、「IBIS (アイビス)」プロジェクトを今回は紹介します。



コンテナ船「NYK Virgo」



昨年4月、日本郵船のコンテナ船隊で画期的なプロジェクトが始まりました。プロジェクト名は「IBIS（アイビス）」。洋上の船と陸上の「IBIS」

実行チームを通信衛星による海上ブロードバンド通信で結び、気象・海象予測、海流データや各船の運航状態（速度・エンジン回転数その他）、運航計画などの

コスト・環境両面で燃料節減不可欠に

### ■「IBIS」での船陸間コミュニケーションの流れ

燃料の消費量を大きく抑えるのに効果的なのが、通常よりも速度を落として船を運航する減速航海です。例を挙げると、一般的に8000TEUコンテナ船が運航速度を2割落とすと燃料消費量は半分以下になると言われています。しかし、公表されたスケジュールを守るのが使命のコンテナ船です。極端な減速航海もできません。いかにお客様を満足させつつ燃料消費量を削減するか。従来から船体構造やエンジンの改良などハード面

低減、そして燃料コスト節減という双方の観点から、燃料消費量削減が重要な経営課題の一つと位置付けられました。現在の中期経営計画「More Than Shipping 2013」では、2010年度比較で15年度までに燃料消費効率を10%向上させることを目指しています。

情報と船陸間でリアルタイムに共有、連携することで、最も燃料消費効率の良い運航の実現を目指すというものです。この「IBIS」を詳しく紹介する前に、まず何故このような取り組みが始まったのか、その背景から説明しましょう。

最大の要因は、原油価格の高騰に伴う燃料油価格の急上昇です。10年前に1トン100ドル台だった燃料油は、今では600ドル台に上昇しています。数百隻規模の船を運航する船会社にとって、燃料油価格の上昇はコスト増に直結します。また燃料消費は二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出にもつながるため、環境負荷の

の開発には取り組んできましたが、今後はソフト面での取り組みが重要になります。その中心となるのが「最適経済運航」。そしてそれを可能にする新たなプロジェクトが、冒頭の「IBIS (Innovative Bunker and Idle-Time Saving)」です。

「IBIS」の革新性とはいったい何でしょうか。実はこれまで長い間、船会社は船陸間のコミュニケーションで大きな問題を抱えていました。従来は海上を航行する船との連絡手段はごく限られ、1日数回のメールがせいぜい。船の運航は事実上船長1人の判断にすべて

が委ねられ、陸側に気象・海象情報や港のストライキ情報など航海計画に影響する情報があってもそれを迅速に船側に提供できず、結果的に無駄な運航が生じてしまうことが多々あったのです。

こうした姿を大きく変え、「IBIS」の柱となったのが、海上ブロードバンド通信による船陸間リアルタイム連携の実現でした。この技術は2000年代中盤から研究されていたものの実用に至っていませんでしたが、当社は数年前から地道に実証実験に取り組んできた結果、昨年4月、他船社に先駆けて導入に至ったのです。船への通信装置導入に合わせ、コ

## 船陸間リアルタイム連携で最適経済運航へ

ットアップによって支えられるようになったのです。何より本船の燃料消費量を陸上にいながらにしてリアルタイムに把握できるようにになったので、陸上の運航スタッフはより意識して燃料節減に取り組むようになりました。

「IBIS」実行チームで、中心となったのは若手・中堅社員。東京本社の環境グループや海務グループ、当社グループで輸送技術の研究開発などを行う株式会社MTI、気象情報会社(株)ウェザーニューズなどの外部機関とも連携しています。新しく開発されたポータルサイト(NYK IBIS Portal)には、気象・海象予測、海流データや船の燃料消費状況、目的地の船混み状況など航海に関するさまざまな情報が集約され、船長、運航担当者、代理店など関係者が即時に情報を更



2012年4月、他船社に先駆けてリアルタイムでの船陸間の連携が可能になった

手段を得、それぞれの専門性を持ちよった自由闊達な取り組みが続いています。今後は「IBIS」の全社展開が課題です。これまでのところ、「IBIS」の導入はコンテナ船の北米や欧州向けの東西遠洋航海が中心。日本郵船が運航する100隻近いコンテナ船のサービスはアジアや南米などさまざまな航海があります。東西航路で始まった燃料節減活動を南北航路に拡大するステップに入っています。

さらに今年には、日本郵船のコンテナ船隊が「IBIS」で得た知見やノウハウを他の船種にも応用し、それぞれの特性や条件に応じて同様の最適経済運航を推進する取り組みも始めました。燃料節減、CO<sub>2</sub>削減に向けた日本郵船の取り組みは、まだまだ続きます。

新・共有し、入手した情報を基に最適な航路を選定するなど、迅速に意思決定をすることが可能になります。「燃料消費量の削減」という明確な目標に向けてリアルタイム、船陸双方向の情報伝達



# 船内の「すべて」を点検、 洋上の「燃節伝道師」



**瀧口龍雄**さん

NYK SHIPMANAGEMENT PTE LTD  
自動車専用船「Helios Leader」乗船中



「クルーは家族同然」（瀧口さん）



船内のコントロールルーム

日本郵船の自動車専用船「Helios Leader」

「船のエンジンからエレベーターまで、船内にあるものはなんでも修理します」。

大型船には、生活に必要な陸の設備のほとんどが凝縮されています。そのあらゆるものを点検・整備するのが機関部。そして、Helios Leaderの機関部を率いるのが機関長の瀧口さんです。

船内のすみずみに目を光らせ、安全な航海ができるようにするのが機関長の仕事。瀧口さんの1日は、船長と二等航海士・機関士による打ち合わせに始まり、気象・海象データの確認や全機関士・部員との打ち合わせ、その後は、船内各部の見廻りなどに時間を割きます。「もちろん、船の心臓部であるエンジン周りや、発電機などはしっかりと点検・整備します」。

そんな瀧口さんが、自分の使命と位置付けるもう一つの仕事があります。それ

は船長をサポートしながら、最適経済運航を目指すことです。

「船の安全はもとより、次の港への到着時間や貨物、全船員のことまで、船長は重責を負っています。そんな船長と天候や速度などについて相談することで、わずかな部分でも一緒に背負うことができれば、その先にさらなる燃節が見えてきます」。

「スケジュールに遅れないようエンジンを整備することは、最低限の仕事。これに強い、燃節の意識をプラスすることで、通常の操作や調整がより高度で熟練・習慣化したものになります。必然的に乗組員の総技量は向上し、副産物として、安全運航もより確かなものになります」。

「環境への配慮やさらなる燃節のために、乗船中、どれだけのことを周りに伝え、実施できたかが大事なんです」。

## 環境に優しい太陽光発電を普及促進

一般住宅を含めて浸透してきている太陽光発電。  
日本郵船グループは太陽光発電事業を通じて、環境に優しい  
再生可能エネルギーの普及促進に取り組んでいます。  
災害対策を含めてその活用は広がりそうです。

## 災害対策など活用の場、広がる

日本郵船グループの郵船商  
事株が2009年に開始した  
太陽光発電事業では、発電設  
備の設置場所、広さ、地形、  
日射量などの条件を踏まえて、  
最適な太陽光パネルなどの設  
備を調達し、設置工事や電力  
系統への接続・運用の手配まで、  
一連のサービスを提供します。

最新の導入例として、13年  
6月に北海道で当社グループ  
会社が保有する土地を有効  
活用して大規模な太陽光発

電システムが稼働します。北  
海道の実業は全量を電力会社  
に売電する純粋な発電事業に  
なり、その発電量は一般住宅  
600戸分の年間使用量に相  
当します。

また、海外では12年に米国  
ニュージャージー州にある当社  
グループの物流倉庫に導入し  
ました。倉庫隣接の土地に太  
陽光パネルを設置し、そこで  
発電した電気を倉庫内で使用  
するとともに余剰分を地元

電力会社に販売する……。こ  
のように、多量の電力を必要  
とする施設に「1」があると思  
え、自動車ターミナルにある  
施設への導入なども検討して



コンテナターミナルに設置された  
太陽光発電パネル

います。このほか、海外を中心  
に電力供給が不安定な地域で  
も役立てられるでしょう。

一方、災害対策としても注  
目されています。

静岡で郵船商事株が運営す  
るガソリンスタンドに導入した  
発電システムは、太陽光パネル  
だけでなく、蓄電池とエネル  
ギーマネジメントシステムを併  
設しています。電気使用量を  
監視し、電力需要を抑制でき  
るよう蓄電池から放電する仕  
組みで、仮に災害時に電力供  
給が止まっても、太陽光発電  
蓄電池からの電気を給油シス  
テムに供給できます。

当社グループは太陽光発電  
事業を通じて、地球環境と持

続可能な社会に貢献してい  
ます。

## 日本郵船グループの太陽光発電システム導入例

| 設置場所   |            |           |
|--|------------|-----------|
| 基本発電量(kWh/年間)  | ソーラーパネル(枚) | 事業開始時期(年) |
| <b>郵船商事株</b>   |            |           |
| <b>日本郵船東京コンテナ・ターミナル(大井埠頭)</b>                              |            |           |
| 160,000  | 1,590      | 2010      |
| <b>Yusen Terminals Inc. Port of Los Angeles(米・カリフォルニア)</b> |            |           |
| 11,500   | 96         | 2010      |
| <b>ヒカワ石油グリーンステーション(静岡・伊東)</b>                              |            |           |
| 6,500  | 33         | 2012      |
| <b>米国郵船ロジスティクス株 Port Murray 倉庫敷地内(米・ニュージャージー)</b>          |            |           |
| 650,000  | 6,246      | 2012      |
| <b>北海道八雲太陽光発電所(北海道)</b>                                    |            |           |
| 1,931,000  | 7,840      | 2013      |
| <b>日本コンテナ・ターミナル株</b>                                       |            |           |
| <b>日本郵船東京コンテナ・ターミナル(大井埠頭)</b>                              |            |           |
| 54,000   | 216        | 2013      |
| <b>日本郵船神戸コンテナ・ターミナル(六甲アイランド)</b>                           |            |           |
| 56,000   | 216        | 2013      |



● 2012年10月～2013年3月 ●

## ■ 自動車船の照明、省エネ蛍光灯に順次交換

当社は、自動車専用船に㈱オプトロムの次世代省エネ蛍光灯「E・COOL」を導入しています。2012年度は約1万3,000本の蛍光灯を交換しました。「E・COOL」は、液晶モニターなどに使われてきた冷陰極蛍光灯ランプを利用。低消費電力、長寿命、高輝度、ちらつきが少なく目に優しい光などの特性があります。既存の蛍光灯に比べ約40%の省電力が見込まれ、自動車船1隻当たりのCO<sub>2</sub>排出量が最大1%程度削減されます。2013年度は約4万本の交換を予定。仙台に本社を置く㈱オプトロムは、「E・COOL」の売上金の一部を東日本大震災の災害復興義援金として復興支援に役立てています。(2013年3月)

## ■ G6アライアンス、アジア／北米東岸航路で協調拡大

当社が所属する定期コンテナ船共同運航組織「G6アライアンス」は、5月からアジア／北米東岸航路へ協調範囲を拡大します。6サービス体制で開始し、4,500～8,000TEUサイズの合計50隻以上で共同配船を行います。このうち3サービスはスエズ運河経由、残り3サービスはパナマ運河経由で、アジア、アメリカ東岸、カナダ、中米、カリブ、インド、地中海、中東地域の約30港に寄港します。「G6アライアンス」は、当社、商船三井㈱、APL(シンガポール)、Hapag-Lloyd(ドイツ)、現代商船(韓国)、OOCL(香港)の6社で構成され、すでにアジア／北欧州航路の5サービスとアジア／地中海航路の2サービスの計7サービスで共同運航を行っています。(2013年3月)

## ■ 船主・船舶管理会社向けに「燃節セミナー」開催

当社は3月上旬に、愛媛県今治市の今治国際ホテルと東京都千代田区の本ビルで「燃節(燃料節減)セミナー」を開催しました。セミナーには当社と取引関係にある船主と主要船舶管理会社の合計64社、135名が参加されました。船舶運航における燃節には減速航海が最も効果的であることは知られていますが、一方で減速航海を行うことによる船舶エンジンへの悪影響を懸念する見方もありました。セミナーでは、当社の過去数年間にわたる減速航海の詳細な分析を基に、減速航海によるエンジンへのメリットや、デメリットを最小限に抑える運航上のポイントなどを当社の経営委員・保船管理グループ長の庄司勉が説明し、同席した造船所関係者にも適宜補足説明を加えていただきました。当社は減速航海による燃節へのより一層の理解と協力を求め、「燃節」を海運業界全体で取り組むべき共通の課題と認識し、今後も具体的なデータに基づき燃節に関する技術情報の深化、発信に努めていきます。(2013年3月)



## ■ タイオイル向けに2隻目のVLCCを長期投入

当社は、タイオイル・パブリック社(Thai Oil Public Co., Ltd.、本社:タイ・バンコク、以下タイオイル)向けに大型原油タンカー(VLCC)「TATEYAMA」(2002年竣工、載貨重量約30万トン)での原油輸送を開始しました。同船は今後少なくとも3年間、主にアラビア湾／タイ間を往復航海し、タイのエネルギー輸送への長期・安定的貢献のために従事します。タイオイルとの輸送契約は、2011年3月から開始している長期契約に続く第2弾となります。「TATEYAMA」の投入は、当社の高度な船舶管理能力や船員育成力が、タイオイルグループから長期的なパートナーとして評価されたことにより実現しました。(2012年12月)



## ■ シャトルタンカー事業で新たな定期用船開始

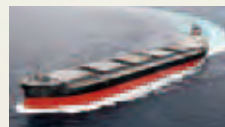
当社が50%を出資するクヌッツェン・エヌワイケイ・オフショア・タンカーズ社(Knutzen NYK Offshore Tankers AS、本社:ノルウェー・ハウゲン)とそのグループ会社は、ブラジル沖で産出される原油のシャトル輸送にスエズマックス・タンカー2隻を投入します。1隻は韓国で建造した15万7,000重量トン型で、1月15日にスペインの世界的なエネルギー企業レプソル社(Repsol S.A.)に引き渡すと同時に定期用船を開始。契約期間は5年間です。もう1隻は、中国で建造される15万2,000重量トン型で、定期用船契約をレプソル・シノペック・ブラジル社(Repsol Sinopec Brasil S.A.)と新たに締結しました。用船開始時期は2014年7～9月の予定で、期間は10年となります。(2013年1月)

## ■ 三井住友銀行の環境配慮評価融資、3回連続で最上位評価取得

当社は、㈱三井住友銀行(國部毅頭取)の「SMBC環境配慮評価融資」で、3回連続で最上位評価を取得しました。当社は、「2015年度までに2010年度比較で燃料消費効率を10%向上」という目標を掲げており、この目標達成に向けた取り組みが評価基準である「環境マネジメント」「環境ビジネス」「環境保全対策」「環境負荷の把握」のいずれでも非常に高い水準であると評価されました。当社グループの主な取り組みは、独自のブローア空気潤滑システム開発と商船への搭載／最適経済運航プロジェクト「IBIS」／国内外グループ会社及び備船を含む約800隻の運航船を対象にISO14001認証取得、他社では類を見ないグローバルな環境マネジメントシステム構築——などです。(2013年2月)



NYK Super Eco Ship 2030



空気潤滑システム搭載の石炭船





UNITED KINGDOM

## NYKのある街 ◆◆◆

### Haugesund ハウゲスン ノルウェー



バイキング発祥の地ともいわれるハウゲスンの街並み

ノルウェー西岸のフィヨルド地帯に位置する港町ハウゲスン。人口3万5000人ほどのこの街がある一帯は、「バイキング」発祥の地ともいわれています。当時最新鋭の武装船を開発した彼らは、世界最高水準の工業技術を持っていたといわれており、今でもこの地域の人々の誇りとなっています。ハウゲスンにはやはり造船所があり、街の経済を支える産業の一つです。

日本郵船はこの街にシャトルタンカー事業を担うグループ会社「Knutsen NYK Offshore Tankers AS」を置いています。深海油田開発に伴う成長分野として、同事業を位置付けています。



Knutsen NYK Offshore Tankers ASのオフィス

## 海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

### 【 運航 】 (うんこう)

▶3ページ

海運会社における運航業務とは、本船の船長や寄港地の船舶代理店にスケジュールや荷役計画を指示、日々連絡を取り合い、荷物の出荷状況や港の混み具合、荷役の進捗状況、さらには航行予定地の気象・海象を把握して、船を安全かつ効率良く廻すことを言う。世界各地の燃料油価格を把握してどこで補油すれば経済的かなども考慮して船の航海全体に目を配る。日本郵船では運航業務担当の能力を育成し、安全運航の徹底と運航効率のさらなる向上を目指して「運航マイスター制度」を導入し、経験・能力に応じた等級を定めている。

### 【 海上ブロードバンド通信 】 (かいじょうぶろーどばんどつうしん)

▶5ページ

洋上では衛星回線を通じて電話やメールは可能だったが通信で済む情報はごく限られていた。大容量・高速・常時接続型の通信を洋上でも実現するのが海上ブロードバンドだ。大容量のデータ通信は最新の気象・海象情報を入手できるなど高度の航行支援が可能となり、乗組員が海上で家族とのコミュニケーションも頻繁にできるなど福利厚生面でも役立つ。日本郵船では2010年から実証実験を開始、2012年からは順次全コンテナ船に導入して効率的かつ安全な運航を目指すなど、海上ブロードバンド通信装置の導入拡大を加速している。

### 【 船舶代理店 】 (せんぱくたいりてん)

▶5ページ

船舶が港に入出港するときは、海運会社は税関や港湾局、検疫所、入国管理局といった関係官庁との間でさまざまな行政手続きが必要となる。船舶の各寄港地では現地の船舶代理店が海運会社と代理店契約を結び、こうした手続きを代行し、入出港に際しては船舶と連絡を取り、船舶がスムーズに入出港できるよう手配を行う。また輸出入に関わる書類作成やカスタマーサービスなど、荷主に対するサポート業務も実施する。さらに、船員の乗下船や船体の維持管理などの船主業務も船主から委託されて代行することもある。

### 【 シャトルタンカー 】 (しゃとるたんかー)

▶16ページ

沖合いに設置される浮体式の石油・ガス生産・貯蔵・積出設備などで生産された原油・ガスを陸上の製油所や貯蔵基地にシャトルで輸送するタンカー。「フローティング・パイプライン」とも呼ばれる。潮流や風などの激しい海象でも安全に荷役できるように、船を定められた位置に維持する「ダイナミック・ポジショニング・システム」など特殊な装置を搭載する。

### 【 定期用船 】 (ていきようせん)

▶13ページ

船舶所有者(船主)が所有する船舶を日本郵船のように船舶を運航する海運会社(用船者)に一定期間貸し渡すこと。契約期間には1航海だけのスポットや1年未満の短期用船から、10年を超える長期用船まである。用船者は一定額の用船料を支払い船を運航し、船主は船員の配乗を始め、修繕や船用品の調達などの船舶管理責任を負う。

■大阪発 秋の鹿児島ワンナイトクルーズ

2013年10月6日(日)大阪発~7日(日)鹿児島着 旅行代金 50,000~250,000円

■博多発 ハロウィーン ワンナイトクルーズ ~岩国・広島~ ●

2013年10月31日(日)博多発~11月1日(日)岩国/広島着 旅行代金 50,000~250,000円

■広島発 秋の神戸・駿河クルーズ

Aコース 2013年11月5日(日)広島発~8日(日)横浜着 旅行代金 150,000~750,000円

Bコース 2013年11月5日(日)広島発~7日(日)清水着 旅行代金 100,000~500,000円

Cコース 2013年11月6日(日)神戸発~8日(日)横浜着 旅行代金 100,000~500,000円

■ウィークエンド 東京ワンナイトクルーズ

2013年11月16日(日)東京発~17日(日)東京着 旅行代金 49,000~250,000円

■秋の伊勢湾 四日市クルーズ ~洋上で過ごす、夫婦の休日~

2013年11月22日(日)横浜発~25日(日)横浜着 旅行代金 155,000~750,000円

■南西諸島・台湾クルーズ ~人生を豊かにする、大人の旅~ ●

Aコース 2013年11月28日(日)横浜発~12月12日(日)横浜着 旅行代金 588,000~2,940,000円

Cコース 2013年11月29日(日)大阪発~12月11日(日)大阪着 旅行代金 500,000~2,520,000円

この他に石垣下船、石垣乗船のコースもございます。詳しくはお問合わせください。

■Xmas A-styleクルーズ ●

2013年12月13日(日)横浜発~15日(日)横浜着 旅行代金 110,000~500,000円

■ニューイヤー香港クルーズ ●

Aコース 2013年12月26日(日)横浜発~2014年1月5日(日)横浜着 旅行代金 520,000~2,500,000円

Bコース 2013年12月28日(日)鹿児島発~2014年1月5日(日)横浜着 旅行代金 436,000~2,000,000円

■A-styleクルーズ ~冬彩(ふゆいろ)~

2014年1月11日(日)横浜発~13日(日)横浜着 旅行代金 110,000~500,000円

■ウィークエンド 尾張名古屋クルーズ

2014年1月24日(日)横浜発~26日(日)横浜着 旅行代金 100,000~500,000円

■2014年 アジアグランドクルーズ ●

Aコース 2014年1月30日(日)横浜発~3月6日(日)横浜着 旅行代金 1,260,000~7,700,000円 通常代金 1,290,000~7,850,000円

Bコース 2014年1月31日(日)神戸発~3月5日(日)神戸着 旅行代金 1,200,000~7,250,000円 通常代金 1,220,000~7,400,000円

■春の横浜ワンナイトクルーズ

2014年3月9日(日)横浜発~10日(日)横浜着 旅行代金 50,000~200,000円

Xmasワンナイトクルーズ

■横浜ワンナイトクルーズA

2013年12月12日(日)横浜発~13日(日)横浜着 旅行代金47,000円~200,000円

■横浜・神戸ワンナイトクルーズ

2013年12月15日(日)横浜発~16日(日)神戸着 旅行代金49,000円~250,000円

■神戸ワンナイトクルーズA

2013年12月17日(日)神戸発~18日(日)神戸着 旅行代金49,000円~200,000円

■神戸ワンナイトクルーズB

2013年12月18日(日)神戸発~19日(日)神戸着 旅行代金47,000円~200,000円

■名古屋ワンナイトクルーズ

2013年12月20日(日)名古屋発~21日(日)名古屋着 旅行代金49,000円~250,000円

■名古屋・横浜ワンナイトクルーズ

2013年12月21日(日)名古屋発~22日(日)横浜着 旅行代金49,000円~250,000円

■横浜ワンナイトクルーズB

2013年12月22日(日)横浜発~23日(日)横浜着 旅行代金50,000円~250,000円

■横浜ワンナイトクルーズC

2013年12月23日(日)横浜発~24日(日)横浜着 旅行代金50,000円~250,000円

●=ハロウィーンキャンペーン25 お得な子供代金が設定されています

●=アスカクラブ特別割引(20%)が設定されています(※)

●=レディース割引(10%)が設定されています(※)

●=ハッピーファミリークルーズ お得な子供代金が設定されています

●=早期全額支払割引が設定されています(※)

(※)の割引を適用の場合、株主優待割引はご利用いただけません。ご了承ください

お問い合わせ | 郵船クルーズ | TEL 045-640-5301 FAX 045-640-5366  
http://www.asukacruise.co.jp/

# 飛鳥IIで行く 新しいアジア大航海



ホーチミンの飛鳥II (撮影・中村庸夫)

2014年1月、飛鳥IIは新しいアジアの大航海「アジアグランドクルーズ」に出発します。アジア8カ国11港をじっくりと時間をかけて周遊。遺跡や大自然、エネルギーシユな都市やグルメなど、多彩な表情を持つアジアの魅力に出会える旅です。

中でも、ミャンマー最大の都市ヤンゴンと、英国統治時代の面影を残すマレーシアのペナン、自然豊かなボルネオ島の玄関口、コタキナバルの3都市に初寄港します。

さらに今回は、本クルーズご乗船者を対象としたハロン湾ボート遊覧とヤンゴン市内観光、シンガポールナイトサファリの3つの無料招待ツアーを実施します。この機会に、ぜひ飛鳥IIで新しいアジアの旅へ。





## NYKと 石鹸のはなし

現在の石鹸の主な原料はパーム油。世界で最も多く生産される植物油で、その生産量は5000万トン(2012年)を超えています。インドネシアなどの東南アジアで製品化された石鹸は、NYKのコンテナ船に積まれて日本へ運ばれてくるのです。



**日本郵船**